

京 都 大 学

國文學論叢

第 9 号



南田堂鎮壇をめぐる説話 橋本 正俊 (一)

『和泉式部日記』の語り手の様相 菅原 領子 (二七)

賀茂季鷹の能宣歌誤写説 盛田 帝子 (二九)

——文化十年石清水臨時祭再興逸事——

朗読集 (Lectioarium) としてのバレット写本所収文書

..... 川口 敦子 (三七)

「講義要綱」におけるローマ字書きの本語について

..... POPESCU Florin (1)



編集後記

『京都大学国文学論叢』第九号をお届けします。本号は、中古から近世の時期に跨り、国語学に関する論考が二本、国文学に関する論考が三本という内容になりました。

本誌も創刊から丸四年が過ぎ、次号は十号という一つの節目を迎えます。この四年の間にも、国語学・国文学研究を取り巻く環境は大きく変化しました。それに伴い、研究発表の場としての本誌に求められる理想も、創刊時とは変わっていくのかもしれない。

(三嶋)

平成十四年十一月二十五日 印刷
平成十四年十一月三十日 発行

編集発行者

千六〇六一八五〇一

京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科国語学

国文学研究室「国文学論叢」編集部

電話 〇七五―七五三一―二八二四

印刷者

京都市下京区室町通り仏光寺上る

亜細亜印刷株式会社

※表紙題字『易林本節用集』より

(京都大学文学部蔵慶長板)